

■ タイガーを待つ

デカン高原の真ん中に在る密林の中でジープを止め、私は静かにジッと息を潜めてベンガルタイガーが現れるのを待っていた。

密林と言っても落葉した木立に囲まれた明るい場所で、冬の朝の光がそこ此処に射し込んでいる。木立の間から見える池の水面には、冷気が触れて白い霧が微かに立ち昇っていた。この池にベンガルタイガーが良く来るのだ。

突然、近くの木立に止まっていたカラスが騒ぎ始めた。現れたか？ ガイドが池の対岸を指さして“Tiger”と囁く。カメラを向けると、逆光の中に輪郭を金色に輝かせた黄と黒の縦縞模様が動いていた！

音もなく現れたこの密林の王者に、私は野生への強い畏敬と震えるほどの感動を覚えた。

(インド・ラジャスタン州ランタンボール国立公園にて。1990年12月)

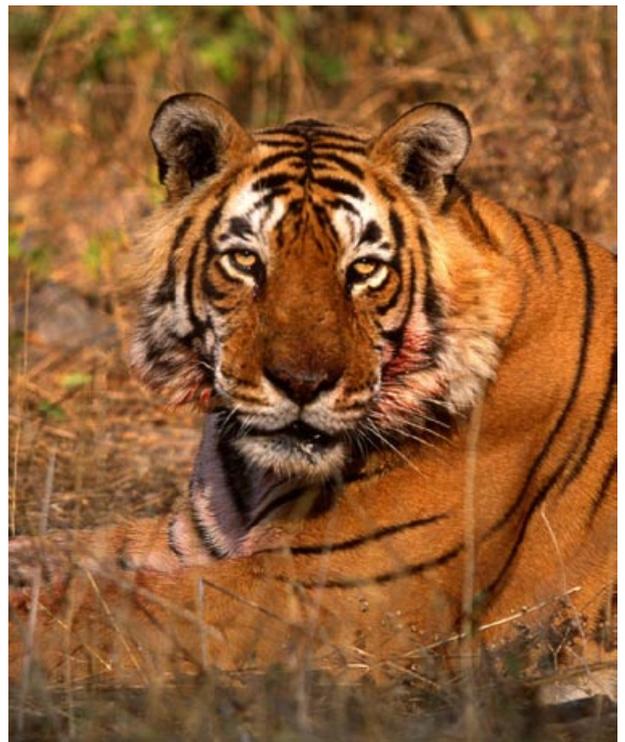
▶ ランタンボール国立公園について

ランタンボール国立公園は約400km²の広さが有り、元々領主の狩猟地でした。今でもその別邸や城砦の跡が残っています。此处で絶滅寸前だったベンガルタイガーを自然の中で増やすために“Tiger Project”と呼ばれる活動が進められていました。

当時この保護区に生息しているタイガーは40数頭とされていましたが、密猟のために実態はもっと少なかったようです^注)。そのため腕の良いガイドを雇ってレンジャーからも情報提供して貰い、広い保護区の中をジープを駆って何日も探し廻りました。

相対的に雄は少なく雌を見る機会の方が多かったです。雌はテリトリーを持って獲物の殆どを捕り、雄はテリトリーを持たずに徘徊して雌とペアを組みます。此处はアフリカのサバンナを思わせる地形が多くて明るく見通しが良いので、他の保護区に比べてタイガーの撮影が楽な場所でした。

注：私は撮影中に2回位発砲音を聞いていて、ガイドは“Hunting! Poach!”と言っていました。実際1992年末に密猟が発覚し、調査した所タイガーは10数頭しか居ませんでしたので、その後数年間国立公園は閉鎖されレンジャー武装化等の処置も取られました。



- すでに掲載された「写真便り」はこちらにあります
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/ookawasan/essey-title.html>
- 大川さんのホームページはこちら
<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>
<http://kawamoto1940.web.fc2.com/>
<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm>